

IRCI 2025



独立行政法人 国立文化財機構
アジア太平洋無形文化遺産研究センター
概要 2025



ごあいさつ

アジア太平洋無形文化遺産研究センター (International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region [IRCI]) は国立文化財機構の一施設で、国際連合教育科学文化機関 (ユネスコ) のカテゴリー2センターとして、2011年に大阪府堺市に設置されました。ユネスコの「無形文化遺産の保護に関する条約」の実施を促進するため、アジア太平洋地域の無形文化遺産保護のための調査研究を推進することを使命とする国際拠点として活動しています。

口承表現、芸能、祭礼等に代表される無形文化遺産は、生きている遺産です。時代によって変化しつつも、世代から世代へ引き継がれ、革新、創造、交流の源である文化の多様性につながるものです。グローバル化が進み、多様性の維持と持続可能な開発の実現という課題に直面する現代において、文化の貢献への期待は大きく、また国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成においても、地域で培われてきた伝統的知識や文化的実践などの無形文化遺産が果たす役割がさらに認識される必要があります。

全世界人口の約3分の2を占めるアジア太平洋地域は、無形文化遺産の宝庫です。しかし、その多くが社会の変容、高齢化、災害、紛争等により、消滅の危機に瀕しています。無形文化遺産の保護は緊急の課題であり、国境を越えた協力が必要不可欠です。

このような問題意識の下、IRCIは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護に関する研究の中核的な存在として、ユネスコ、大学、研究所、博物館、地方自治体、コミュニティ関係者、政府および非政府組織等と連携しながら、研究のための基盤づくりを進めるほか、SDGsへの無形文化遺産の貢献、無形文化遺産と気候変動といった、現在の世界的課題に関連する事例研究を展開しています。

世界に先駆けて無形文化遺産の保護に取り組んできた日本に位置する特性を生かし、今後もIRCIは、多様な主体と連携しながら、調査研究を通して域内の無形文化遺産の保護の促進・活性化に努めてまいります。

今後ともIRCIの活動に対する皆様の御協力、御支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長
町田 大輔

目次

ごあいさつ 01

IRCIとユネスコ無形文化遺産

ユネスコカテゴリー2センターとは 02

IRCIの運営 02

「無形文化遺産の保護に関する条約」について 03

無形文化遺産とは 04

IRCIの活動

中期計画 (2022～2026年度) の重点領域と調査研究事業 05

2025年度の研究事業 06

無形文化遺産保護のための研究の促進

1. 無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国 (SIDS) を中心に 06

2. アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム 08

持続的かつレジリエントな社会構築のための無形文化遺産保護に関する研究

1. 無形文化遺産と生態系に関する予備調査 10

2. アジア太平洋地域の無形文化遺産と気候変動に関する調査研究 12

研究機関との協力・連携 14

広報活動 15

堺市との連携 15

事業年表 16

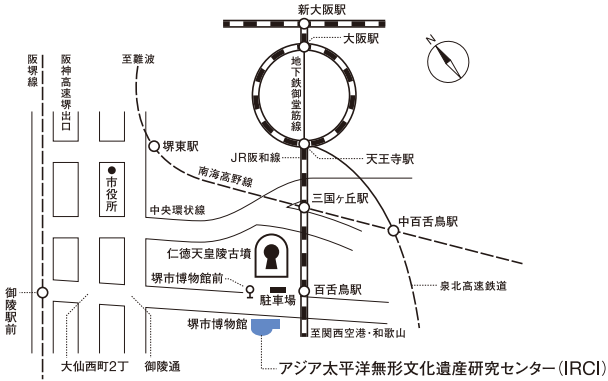
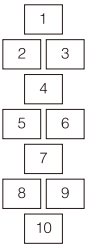
資料

IRCI主催の国際会議・ワークショップ等 18

刊行物 20

[表紙写真]

- 1. パプアニューギニア、ニューブリテンの伝統的踊り ©N.Falk-Simet
- 2. フィジー、タイレヴ州の伝統的水がめ、サンガモリ ©E.Edwards
- 3. ギベドゥージ、イランの伝統的エスパドリーユ製造 ©Persian Garden Institute for Living Heritage
- 4. カンボジアの伝統的なラタン(籐) 編み (2022年11月)
- 5. ガムラン、インドネシアの伝統的打楽器楽団
- 6. マレーシア、ベナン島の協力機関訪問の様子 (2023年7月)
- 7. マニニング、フィリピンのカニ笠漁 ©T.Tsuji
- 8. インドの伝統的手織りの工程 ©R.Sethi
- 9. モンゴル・ビエルゲー、モンゴルの伝統的民族舞踊 ©S.Arslan
- 10. 奈良県の吉野杉と橋の森林視察 (2023年9月)



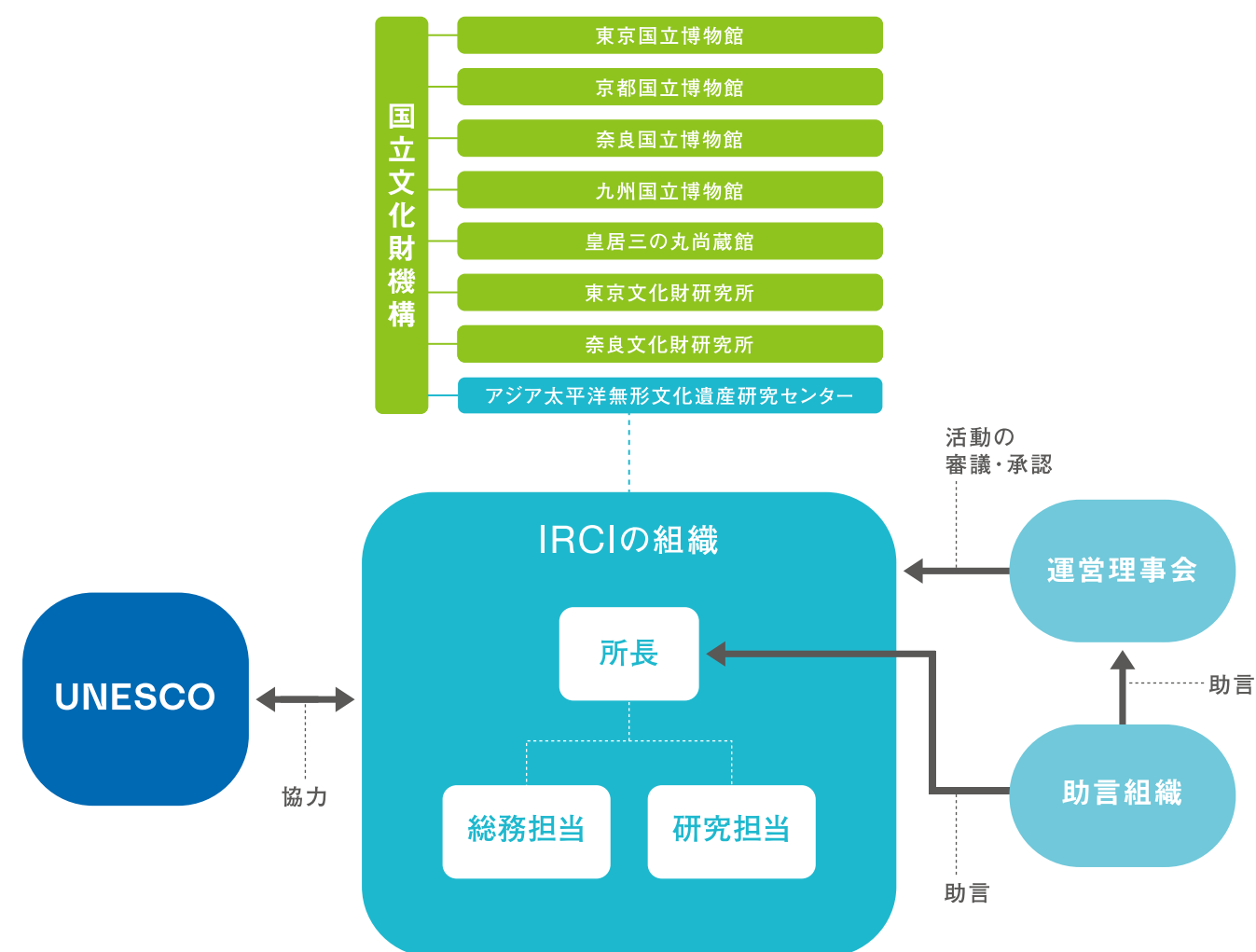
ユネスコカテゴリー2センターとは

ユネスコと協力してプログラムを実施する機関です。日本を含め、世界には無形文化遺産保護に貢献するユネスコカテゴリー2センターが8機関あります。東アジア地域では、IRCIのほかにも中国と韓国に設置されており、連携と協力を進めています。日本のIRCIが「調査研究」、韓国のアジア太平洋無形文化遺産国際情報ネットワークセンター（International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region〔ICHCAP〕）が「情報ネットワーク」、中国のアジア太平洋無形文化遺産国際研修センター（International Training Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region〔CRIHAP〕）が「人材育成」を担当し、ユネスコのプログラムに貢献しています。

IRCIの運営

IRCIの活動は、運営理事会の承認の下、運営されています。

運営理事会は、ユネスコ代表を含む10名の国内外の専門家及び専門機関の代表で構成され、中長期計画、事業計画及び事業報告等のIRCIの活動全体について審議、承認しています。また、事業の計画に際しては、助言組織が専門的な見地から具体的なアドバイスを行っています。加えて、所長に対してIRCIの運営に関し必要な支援及び助言を行う役職として名誉顧問を2017年10月より設け、元ユネスコ事務局長の松浦晃一郎氏に御就任いただいています。



「無形文化遺産の保護に関する条約」について

国際連合の専門機関の1つである国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）は、教育、科学、文化、コミュニケーションの分野で国際的な協力活動を推進する目的で、1945年に設立されました。その活動の一環として国際条約の採択や運用等を行っていますが、文化に関しては、第17回総会（1972年）で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）や、第33回総会（2005年）で採択された「文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約」など、6つの国際条約があります。その1つ「無形文化遺産の保護に関する条約」（以下「無形文化遺産保護条約」という。）は、有形の文化遺産を保護する世界遺産条約から約30年遅れて、2003年に採択された条約です。

無形文化遺産保護条約は、口頭伝承や民俗芸能などのフォークロアを保護する目的で、ユネスコが1970年前後から行ってきた議論の成果です。この条約には4つの目的があります。①無形文化遺産を保護すること、②関係するコミュニティや集団、個人の無形文化遺産が尊重されるようにすること、③無形文化遺産に対する理解を地域的、国内的、国際的に高めること、④国際的な協力、援助についての規定を設けることです。これに関連して、無形文化遺産は次のように定義されています。「慣習、描写、表現、知識及び技術並びにそれらに関連する器具、物品、加工品及び文化的空間であって、社会、集団及び場合によっては個人が自己の文化遺産の一部として認めるもの」（第2条1）。具体的には、①口承による伝統および表現、②芸能、③社会的慣習、儀式および祭礼行事、④自然および万物に関する知識および慣習、⑤伝統工芸技術がこれに当たります。条約を締結した国は、自国の無形文化遺産についての目録を作成することが義務付けられています（第12条）。

この条約に関する意思決定は、2つの場においてなされます。その1つは、隔年で開かれる締約国会議で、条約推進のための戦略的な方向付けを行います。もう1つは、締約国会議が選出したメンバー国による政府間委員会です。政府間委員会は24か国から構成され、毎年1回の会合を開いて条約の具体的な実施に努めています。その中で最も重要な役目は、無形文化遺産の2つのリストへの記載を審議することと、無形文化遺産保護の顕彰事例を決定することです。

無形文化遺産保護条約は、第16条と第17条で定められている2つのリストへの記載を求めている。それらは「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」（代表リスト）と、「緊急的保護の必要のある無形文化遺産一覧表」（緊急保護リスト）です。無形文化遺産保護条約の代表リストは、無形文化遺産の価値に優劣はつけないという視点に立ちます。代表リストはあくまで、世界の多様な無形文化遺産を示すためのものであり、国際的な意識喚起を目指すもののです。また、無形文化遺産保護条約では、代表リストより緊急保護リストを重視して条約運営を進めており、この点に世界遺産条約との違いがあります。保護の対象はあくまで「人の営み」であり、無形文化遺産を継承するコミュニティを主体に保護していくことが明示されています（第15条）。

無形文化遺産保護条約の批准国の多くが、貧困、専門家の不足、若者の無関心や都市への人口流出、紛争や戦争など様々な課題を抱えているのが現状です。そのため、法整備や人材育成、資金、持続可能な教育などへの支援が必要とされています。条約では、特に第17条で定められた緊急保護リストに重きをおくため、適切な国際支援体制と保護方策が求められていると言えます。

IRCIでは、消滅の危機にある伝統芸能や工芸技術を継承するコミュニティおよび政府関係者と話し合いを重ね、彼らのニーズを考慮した映像記録を作成する事例研究を2012～2014年度に実施して以来、ユネスコ、国内外の大学、研究所、博物館、コミュニティ代表者、政府やNGOとともに研究を行っています。研究機関としてのIRCIはその研究成果をコミュニティに還元し、コミュニティにとって理想的な保護の実現に貢献していくことが最も重要であると考えます。先に述べたように、この条約は、コミュニティつまり無形文化遺産を保持・継承する人々を重視していることによるものです。

無形文化遺産とは

無形文化遺産 (intangible cultural heritage) は、生きている文化遺産です。

時代によって変化しつつも、世代から世代へ受け継がれ、文化的アイデンティティや豊かさを与えるものです。

「無形文化遺産保護条約」では、以下の5つの類型を示しており、写真はアジア太平洋地域からの事例の一部です。

口承による 伝統および表現

- 1 タジキスタンの民謡、ファラック (タジキスタン)
©Tajikistan National Commission for UNESCO, 2020, with the permission of UNESCO
- 2 マレー語の詩の一種、パントウン (インドネシア、マレーシア)
©Policy Research Center of Education and Culture, Ministry of Education and Culture, Indonesia, 2017, with the permission of UNESCO



芸能

- 3 カンボジア宮廷舞踊 (カンボジア)
©International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI), 2013
- 4 ベトナム中部の芸能、バイチャイ (ベトナム)
©Vietnamese Institute for Musicology, 2014, with the permission of UNESCO



社会的慣習、儀式 および祭礼行事

- 5 ヒンドゥー教の祭礼・巡礼、クンプ・メーラ (インド)
©Sanjay Jagtap, India, 2015, with the permission of UNESCO
- 6 シンガポールのホーカー文化: 多文化都市の文脈におけるコミュニティの食事と料理の慣習
©National Environment Agency, Singapore, 2019, with the permission of UNESCO



自然および万物に関する 知識および慣習

- 7 カロリン諸島の経路探索とカヌー製作 (ミクロネシア連邦)
©Eric Metzgar (USA), Micronesia, 2016, with the permission of UNESCO
- 8 鷹狩 (カザフスタン、韓国、キルギス、モンゴル等)
©National Commission of the Kyrgyz Republic for UNESCO, 2019, with the permission of UNESCO



伝統工芸技術

- 9 東ティモールの伝統織物、タイス (東ティモール)
©Timor-Leste National Commission for UNESCO, 2020, with the permission of UNESCO
- 10 日本の伝統建築工匠の技 (日本)
©Agency for Cultural Affairs, Japan, 2019, with the permission of UNESCO



中期計画 (2022～2026年度) の重点領域と調査研究事業

IRCIは中期計画に基づき、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究拠点として、

国内外の研究機関・研究者とのネットワークを駆使して、以下の2つの重点領域を掲げて調査研究活動に取り組んでいます。

無形文化遺産保護のための研究の促進

無形文化遺産保護を推進する上で、研究は重要な役割を果たします。

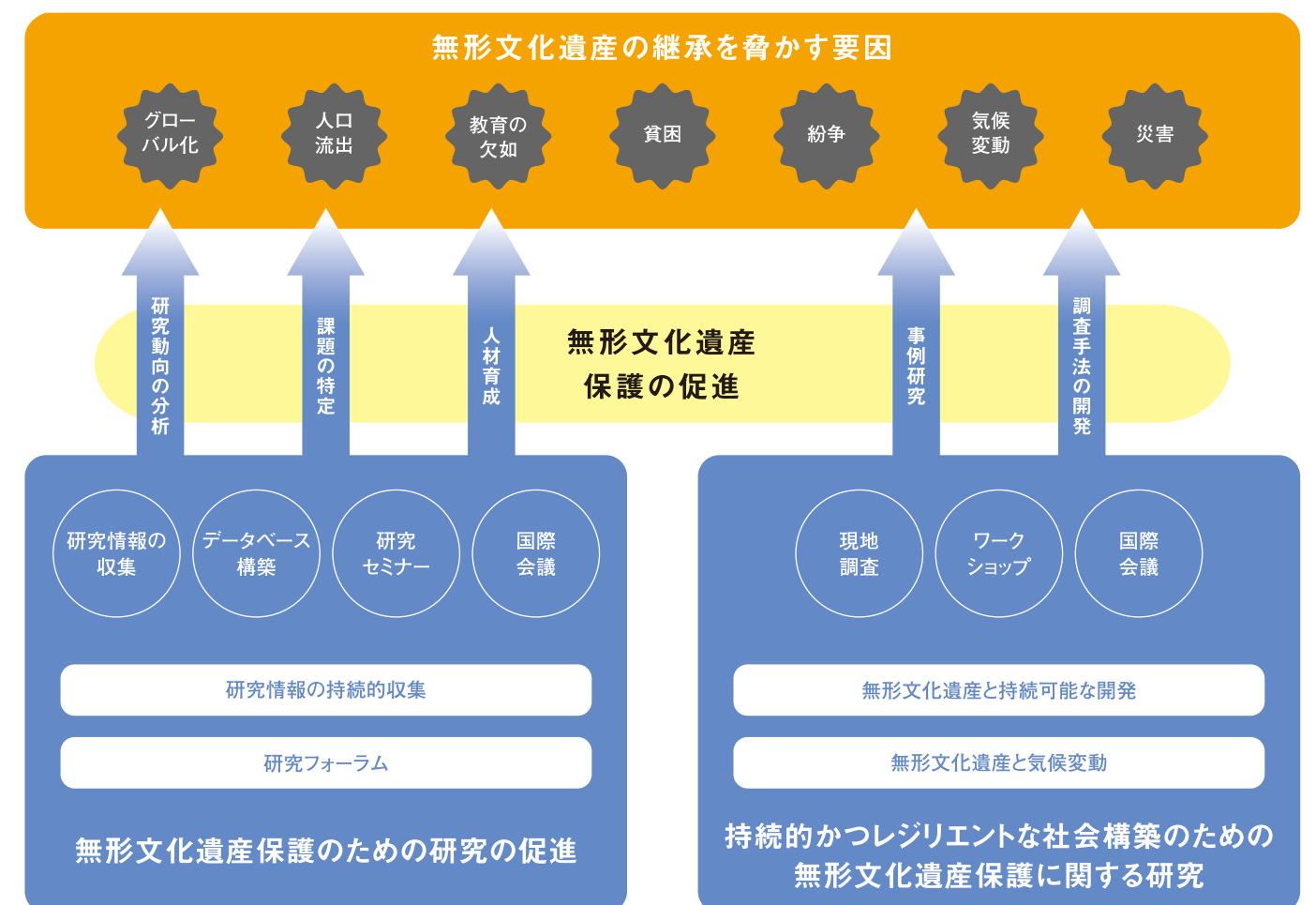
2025年度は以下の事業を通じて、アジア太平洋地域における無形文化遺産研究の活性化を図ります。

- 1 無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集: 中央アジアと小島嶼開発途上国 (SIDS) を中心に
- 2 アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム

持続的かつレジリエントな社会構築のための無形文化遺産保護に関する研究

アジア太平洋各地の大学や研究所、NGOなどと連携し、災害、気候変動への対応、持続可能な開発など、現在の国際的課題について、無形文化遺産の観点から実践的な事例研究を行います。2025年度には以下の事業を実施します。

- 1 無形文化遺産と生態系に関する予備調査
- 2 無形文化遺産と気候変動に関する調査研究



2025年度の研究事業

無形文化遺産保護のための研究の促進

1 無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国（SIDS）を中心に（2022～2025年度）

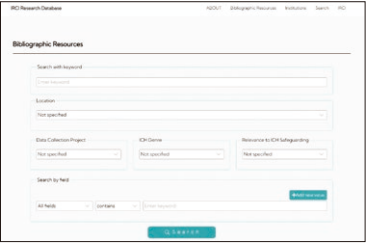
無形文化遺産とその保護に関する文献資料などの研究情報は、保護の現状や課題を把握する上で不可欠な基礎情報です。これらを広く共有し研究や国際協力を促進するため、10年以上にわたりアジア太平洋地域を対象に情報を収集し、データベースで公開してきました。現在は研究状況が十分に把握できていなかった中央アジア及び小島嶼開発途上国（SIDS）に焦点を当て、機関連携による体系的な情報収集を進めています。

当初は3年間の計画でしたが、島嶼国において連携機関が情報収集を終え、自国の無形文化遺産研究の動向や課題について分析できるよう、1年間延長して実施しています。こうした活動が基盤となり、連携機関において無形文化遺産保護を推進するための能力が強化することが期待されます。2024年度に情報収集が完了した中央アジアに関しては、今年は地域会合を開催し、情報収集成果を踏まえて、地域的なテーマや課題について議論します。

さらに、無形文化遺産NGOフォーラムと協力し、域内の無形文化遺産関連のNGOについて情報収集を行います。NGOによる調査研究成果を発信することで国際協力を一層推進するとともに、データベースにおけるNGO関連情報の充実を図ります。

IRCI研究データベースの活用

無形文化遺産やその保護に関する研究の重要性が高まるなか、IRCIでは、アジア太平洋地域における研究情報を広く共有し、研究を促進するために、域内の無形文化遺産研究および保護に関する文献や関連機関の情報を提供するデータベースを2014年度から公開しています。開設以来、研究者や専門家、学生、無形文化遺産の継承者、行政担当者など様々な関係者に有益な情報を提供できるデータベースづくりを目指し、継続的に改良を行ってきました。



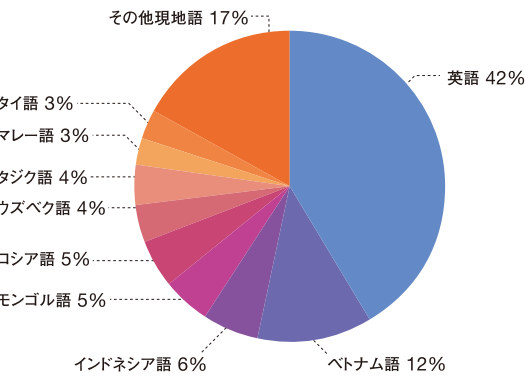
IRCI研究データベース（文献検索ページ）

2024年度には拡張性のあるシステムを導入してデザインを一新し、表示された情報が見やすくなっただけでなく、検索オプションの追加や絞り込み検索、オンライン公開中のPDFなど、原資料へのリンクも可能になりました。

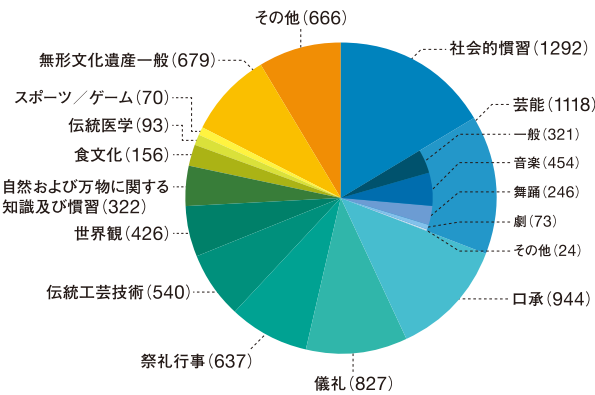
収録情報の中心を占める文献等研究情報は、2025年3月現在3,952件で、49か国・地域にわたっています。様々な無形文化遺産を対象に、ドキュメンテーション、法整備、人材育成、防災など幅広い保護措置を扱っており、また、英語による要旨を含む書誌情報の表示により、域内各地の現地語で書かれた文献へのアクセスを高める工夫をしています。

収集した文献情報の特徴

● 文献で使用されている言語



● 収集した文献が取り扱う無形文化遺産の種類（件数）



過去に実施した関連事業

無形文化遺産保護のための研究情報の収集と公開

無形文化遺産に関する文献や研究者、研究機関および研究活動の情報は、無形文化遺産保護において重要であるにもかかわらず、これまで各地域に散在しており、把握が困難でした。そのためIRCIでは、アジア太平洋地域における無形文化遺産関連の研究動向を把握し、無形文化遺産保護における課題を特定するため、2013年度より「マッピング事業」として情報収集を実施し、得られた情報を研究データベース上で公開してきました。



第1回ワーキンググループ会合（2019年6月 東京）

より体系的に研究情報を収集するため、2019年度からは「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集」事業を実施し、東南アジアを中心に各国の大学やNGO等の研究機関と連携し、2021年度にかけて研究情報を継続的に収集しました。

これらの事業では情報を収集だけでなく、連携研究者や関連機関、無形文化遺産専門家が参加しての会合等も開催し、アジア太平洋地域における無形文化遺産研究の現状と課題の共有促進にも寄与しました。



● 2018年度までに調査した国および地域（31か国1地域） ● 2019年度以降「研究情報の持続的収集」事業の提携機関の所在する国（18か国）

2025年度の研究事業

無形文化遺産保護のための研究の促進

2

アジア太平洋地域における
無形文化遺産保護のための研究フォーラム(2022～2026年度)

アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究を推進するため、域内の研究者間の交流のプラットフォームとして、2022年度に「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム」を設立しました。学際的研究のさらなる活性化と国際連携を促すとともに、地域における無形文化遺産研究拠点としてのIRCIの役割を強化する取り組みで、第一線で活躍する域内の専門家からなる企画委員会の助言と協力を得て、地域共通のニーズや関心に即したセミナーや国際会議を企画・開催してきました。

2024年度には、毎年継続しているオンラインセミナーに加え、フォーラム初の国際会議や若手研究者プログラムを実施しました。これらの成果は、2025年度にそれぞれ論文集として出版される予定です。

Facebookグループ

現在、Facebookグループを利用して、イベントや企画に関する情報発信を行うとともに、研究者間の情報共有の場としています。こちらのQRコードからFacebookグループに参加できます。



国際会議

国際会議「無形文化遺産保護研究の新領域」を、2025年2月、大阪の国立民族学博物館で開催しました。公募により選ばれた研究者を中心とする参加者らは、無形文化遺産研究や保護の新たなアプローチや方法論、地域が直面する諸課題について、3日間にわたり学術的かつ学際的な議論を交わしました。本会議の成果は専門書として出版予定です。アジア太平洋地域における無形文化遺産研究の理論的側面と実践的事例研究を取り上げており、今後の研究の発展に大きく貢献すると期待されます。

若手研究者育成プログラム

新企画となる若手研究者向け出版支援プログラムを、2024年10月から開始しました。オンラインおよび対面のワークショップ、論文執筆、国際会議での発表や第一線で活躍する研究者との交流を通して、若手研究者の論文作成と出版を支援しています。第1期生として選ばれた7名は、2025年2月の国際会議での発表を終え、現在は論文出版にむけ執筆に取り組んでいます。次世代を担う無形文化遺産研究者育成はIRCIの使命です。最終成果の出版は、無形文化遺産研究に新たな視点をもたらし、その発展・充実に寄与することでしょう。

アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー

2022年のフォーラム発足以来、オンラインを活用することで誰でも参加可能な研究セミナーを継続しています。アジア太平洋地域を中心に研究者、政府関係者、博物館職員、無形文化遺産実践者などを招き、無形文化遺産保護の課題や最新の研究動向を議論しています。過去のセミナーでは、コミュニティ参画、保護の優良事例、気候変動、都市の遺産の包括的保護など、様々な話題を取り上げました。2023年度には、ユネスコ無形文化遺産保護条約採択20周年記念のスペシャルセミナーとして、20年の回顧と展望のセッション、無形文化遺産の担い手の経験から学ぶセッションを開催しました。2024年度のセミナーでは気候変動における在来知や先住民知識の役割に焦点を当て、2025年度は、無形文化遺産と生態系をテーマに開催予定です。オンラインセミナーは、専門家間の連携を強化し、地域における無形文化遺産研究と保護を促進する議論の場として、今後も多様な視点から幅広いトピックを扱っていきます。



スペシャルセミナー セッション2(2023年11月)

YouTube チャンネル

これまで実施したセミナーの動画記録は、IRCIの公式Youtubeチャンネルで公開しています。



これまで実施したオンラインセミナー

年度	回	トピック
2022	第1回	無形文化遺産研究へのコミュニティの参画
	第2回	緊急時における無形文化遺産
	第3回	無形文化遺産保護条約のグッドプラクティスから学ぶ
2023	〈スペシャルセミナー〉2003年条約採択から20年：再考と展望	
	(第4回)	I. 無形文化遺産保護の進展：2003年条約を超えて ・無形文化遺産の保護：「無形文化遺産の保護に関する条約」採択から20年を経て ・二つの条約、一つのパラダイム（無形） ・2003年条約採択から20年：成果と最近の発展 ・パプアニューギニアにおける無形文化遺産保護：パプアニューギニア研究所での20年を振り返って ・モルディブにおける無形文化遺産の保護：進展と課題 ・オーストラリアにおける無形文化遺産：連邦制と先住民族性の魅力
	(第5回)	II. 条約リスト記載の無形文化遺産の担い手との対話 ・バングラデシュのパウルの歌（代表リスト） ・バヌアツの砂絵（代表リスト） ・モンゴルの伝統的民族舞踊ビエルゲーと長歌演奏における循環呼吸法リンベ（緊急保護リスト） ・カザフスタンの鷹狩り（代表リスト＝多国籍記載）
	第6回	多文化都市としてのジョージタウンと文化遺産の相乗効果
	第7回	気候変動に関する先住民および在来の知識：ユネスコによるアフリカおよびカリブ海におけるコミュニティ主導の調査研究
2024	第8回	先住民および在来の知識を活用して適応能力を高める：東南アジア沿岸部コミュニティの事例から

過去に実施した関連事業

IRCI研究者フォーラム

研究者間のネットワークを強化し、学術的な議論の基盤を提供するため、「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関するIRCI研究者フォーラム」を、2017年度から2021年度にかけて隔年で開催してきました。第1回は「無形文化遺産をめぐる交渉」（2017年12月、国立民族学博物館共催）、第2回は「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」（2019年12月、東京文化財研究所共催）と題し、学際的な議論を行いました。IRCI設立10周年企画として2021年10月29日にオンライン開催した「無形文化遺産保護研究の進展と課題―持続可能な未来に向けて」では、これまでの事業を振り返りつつ、研究の進展と今後の展望について議論を深めました。これらの取り組みは、現在の「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム」の枠組みに受け継がれています。



第1回研究者フォーラム「無形文化遺産をめぐる交渉」
(2017年12月 国立民族学博物館)

2025年度の研究事業

持続的かつレジリエントな社会構築のための無形文化遺産保護に関する研究

1 無形文化遺産と生態系に関する予備調査(2025年度)

SDGターゲット11.4は、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力の強化」を通じた持続可能な地域づくりを目指しています。2024年までの事業(11ページ参照)では、アジア太平洋地域の世界遺産や文化・歴史的景観等を取り上げながら、無形文化遺産を活用した地域づくりについて調査しましたが、世界自然遺産をはじめ、自然環境との関係性に関してはまだ十分に検討できていません。そこで本事業では、無形文化遺産と自然環境の関係について理解を深め、自然環境を含めた地域の多様な遺産を包括的に保護するための手法について調査研究する後続年度の事業の準備を実施します。

2025年度は準備段階として基礎的情報収集を行い、次年度からの事例研究では、無形文化遺産が環境の保全や持続可能性に果たす役割を解明するだけでなく、自然と密接に結びついた無形文化遺産をコミュニティが主体となって保護・継承し、持続可能な地域づくりに活用するための方策の開発を目指します。本事業の成果は、SDG14および15が掲げる持続的な資源利用や環境保護にも貢献します。



過去に実施した関連事業

無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究―教育を題材として(2018～2019年度)

教育に関する持続可能な開発目標(SDG4)のターゲット4.7では、文化多様性や文化の持続可能な開発への貢献について理解するような教育を求めています。本事業ではベトナムとフィリピンの専門機関と協力し、どのように無形文化遺産を教育に取り入れ、SDG4.7に貢献するかについて、ベトナムではフォーマル教育、フィリピンではノンフォーマル教育に焦点を当て、事例研究を行いました。

それぞれ、無形文化遺産を教材として使用するためのガイドラインを作成し、実際の教育現場で使用した結果、無形文化遺産を活用した教育は、無形文化遺産の知識や技術の習得だけでなく、学習者の学科習得を助け、教育者や文化実践者にとっては新しい教授法の創出につながる事が分かりました。またこうした機会は、コミュニティに対するプライドや愛着の醸成、関係者間の連携構築にも有効でした。



School of Living Traditions (SLT)でのサパネンの伝統的な歌と踊りの授業(2019年8月 フィリピン、サンボアンガ・デル・スル州レイクウッドSLT)



課外授業での綱引き(2019年10月 ベトナム、ハノイ市)

無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究―教育とまちづくり(2020～2021年度)

前事業において無形文化遺産を教育の現場で活用する中で、無形文化遺産には教育とコミュニティをつなぐ役割がある可能性が見えてきました。そこで2020年度からは、無形文化遺産・教育・地域振興の関連性に焦点を当て、無形文化遺産のSDGsターゲット4.7と11.4双方への貢献について考える事業を、バングラデシュ、インドネシア、キルギスのNGOと連携して実施しました。

事例研究からは、無形文化遺産は世代、男女差などを超え、その時代に適応しながら人々の間で親しまれ継承されており、こうした側面が特に、コミュニティの発展に必要な連帯感や愛着を育むのに重要であることが明らかになりました。また、無形文化遺産を取り入れた教育が、自制心や創造力のような非認知能力の育成にも好影響があることも分かりました。また、2021年1月と12月に開催されたシンポジウムでは、日本の若者、教育者、青年会議所等による事例発表も行われ、実践事例の共有が図られました。



キルギスの伝統的住居・ユルトを活用した地域博物館 ©Taalam-Forum



バングラデシュの伝統演劇ダマイル(農村部での実践の様子) ©DAM



インドネシアの伝統的な劇場芸能クトブラ ©DFCLC

無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究―持続可能なまちづくりと無形文化遺産(2022～2024年度)

文化遺産の保護を通じた持続可能なまちづくり・地域づくり(SDGターゲット11.4)において、無形文化遺産がどのような役割を果たすのか、アジア太平洋地域で調査研究を展開しました。カンボジアではアンコール遺跡群周辺コミュニティの伝統的手芸、マレーシアでは歴史都市ジョージタウンの世界遺産登録記念祭、マーシャル諸島では伝統的航海術や編み物の実践に注目し、事例研究を実施しました。

シンポジウムやワークショップでは、アジア太平洋各地の様々な事例も共有しながら、有形・無形の文化遺産の相互作用や、地域主体の文化遺産の保護・継承・活用について議論を深めました。特に、無形文化遺産は有形の遺産を保護するための単なるツールではなく、有形の遺産の利活用を通して促進されること、そして地域の遺産保護には有形・無形の文化遺産だけでなく、あらゆる形態の遺産を包括的に保護するアプローチが重要であることが強調されました。



アンコール地域の伝統工芸である籐細工(2023年カンボジア、シェムリアップ) ©APSARA National Authority



ジョージタウンのユネスコ世界遺産登録を記念して毎年開催しているヘリテージ・セレブレーションの様子(2024年マレーシア、ペナン州) ©George Town World Heritage Incorporated



島嶼環境に根付いた航海技術と知恵を代表するアウトリガー・カヌー(2023年マーシャル諸島) ©Pasifika Renaissance

2025年度の研究事業

持続的かつレジリエントな社会構築のための無形文化遺産保護に関する研究

2 アジア太平洋地域の無形文化遺産と気候変動に関する調査研究
(2024～2026年度)

気候変動は人々の日常生活を脅かす喫緊の世界的課題です。極端な気象災害の増加や激甚化により生態系の崩壊や資源の枯渇が進行し、その結果として、生業に関する知識や実践、在地の素材に依存する伝統工芸、地域の環境と密接に結びついた祭礼など、様々な無形文化遺産に影響を及ぼしています。本事業では、アジア太平洋地域における事例調査を通じて、気候変動が無形文化遺産に及ぼす影響の様相を明らかにするとともに、急激に変化する環境への適応に無形文化遺産をどう活用できるか、気候変動対策における役割を探ります。

2024年度には、文献調査や国際的な動向把握など予備調査を実施し、事業における重点領域と方針を特定しました。また、気候変動に関連する在来知をテーマに、2回のオンラインセミナーを開催しました。2025年度からは、バングラデシュ、ブータン、パキスタン、ソロモン諸島において本格的な調査を実施し、地域コミュニティにおける気候変動の影響について解明するとともに、伝統的知識や実践を適応計画や防災、啓発活動に取り入れる方法など、地域の気候変動対策に無形文化遺産を活用する戦略について検討します。その知見は、気候変動による様々な課題に直面する地域のレジリエンスを強化し、無形文化遺産を保護するための、地域主体の戦略や行動計画を策定する際の指針になると期待されます。



山頂の氷河融解水を利用するパキスタンのバルティスタン地方の伝統的灌漑システム
© A.Arifeen



ソロモン諸島の離島タウマコでは、バンノキの果実など伝統的食料とその保存技術が災害への備えとして重要です
© M. George



バングラデシュの無形文化遺産ジャマナ織りの品質を保つには、気温や湿度などの厳密な気候条件が必要です
© Murshid Anwar, 2012, with the permission of UNESCO



文化遺産保護と人々の幸福を重視するブータンでは、氷河の融解や異常気象による脅威が高まっています
© M.Kamei

過去に実施した関連事業

文化遺産防災への関心の世界的高まりを背景に、IRCIではアジア太平洋地域において、自然災害や紛争等により危機に瀕した無形文化遺産の実態や保護事例および災害リスクマネジメントにおける無形文化遺産の役割についての調査研究に取り組みました。

無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究(2016～2018年度、2020～2023年度)

2016～2017年度にかけて、自然災害の文脈における無形文化遺産の状況について把握するため、バヌアツ、フィジー、フィリピン、ベトナム、ミャンマーにおいて、事例調査を実施しました。2018年度に開催した地域ワークショップの成果である「無形文化遺産を災害から保護し防災に活用するための提言」は、その後の活動の指針となりました。

第二段階の事業ではインドネシア、日本、バヌアツ、バングラデシュ、フィジー、フィリピン、ベトナム、モンゴルの現地研究者・研究機関と連携し、無形文化遺産保護と防災への活用の方策を更に具体的に考えました。無形文化遺産の潜在的災害リスクおよび災害リスクマネジメントの各過程における有益な側面について机上調査を行い、その結果を踏まえて各国で現地調査を実施しました。最終ワークショップでは事例調査成果を共有しつつ、無形文化遺産を保護し防災に活用するために有効な地域主体の方策について議論しました。

アジアの紛争後国家等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究(2017～2020年度)

武力紛争は地域の文化遺産を破壊します。有形の文化遺産については保護の国際的枠組みが構築されてきましたが、無形文化遺産についてはあまり議論されてきませんでした。そこでアフガニスタン、スリランカ、東ティモール、フィリピンを対象に、紛争により危機に瀕した無形文化遺産を保護するための調査研究を実施しました。紛争後状況において無形文化遺産を保護することの難しさや課題に直面しながらも、無形文化遺産およびその調査への理解が進み、若手研究者の育成にもつながりました。

新型コロナウイルス感染症の無形文化遺産への影響に関する調査研究(2021～2023年度)

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大と人々の交流を制限した予防措置は、無形文化遺産の存続を脅かしました。そこで、コロナ禍における無形文化遺産の実践や継承の状況について、イラン、インド、インドネシア、韓国、キルギス、パプアニューギニア、バングラデシュ、フィジー、モンゴルの研究者と連携し、調査研究を実施しました。まとめの国際会議では、将来のパンデミックに備えるには、様々な行事や事業を通じて関係者間のネットワークや協力関係を強化し、無形文化遺産の継続を確保するような予防的アプローチが重要であることを確認しました。



災害が地域の無形文化遺産に及ぼす影響について議論する住民たち
(2017年 バヌアツ、ガイア島)



バウル実践者へのグループ・インタビュー(2022年 バングラデシュ、マニクガンジ県)

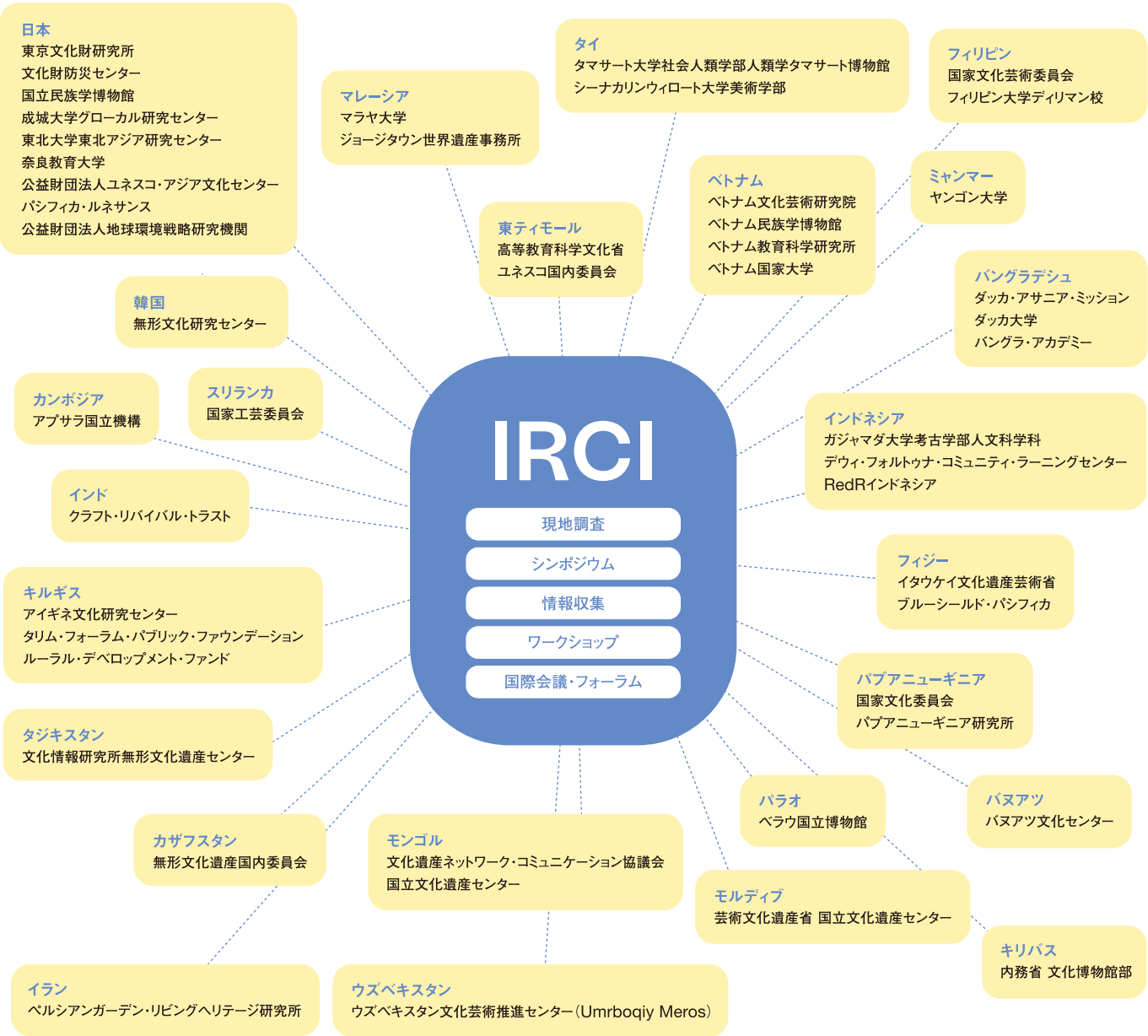
研究機関との協力・連携

IRCIは、日本国内およびアジア太平洋地域の大学、研究所、博物館、政府機関、NGO等と協力して、無形文化遺産保護に資する調査研究を推進しています。現地調査、情報収集、国際会議やシンポジウムの開催等（18～19ページ参照）、これまで約40の機関と覚書等を締結し、共同で事業を行ってきました。

IRCIが所属する国立文化財機構内の連携も強化しており、「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業では、日本国内における無形文化遺産と防災に関する豊富な経験を持つ東京文化財研究所及び文化財防災センターの協力を得て、事業活動を実施してきました。

今後も、さらなるネットワークの拡大、国内外の研究機関との連携を深め、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究の促進に努めていきます。

主な協力・連携研究機関



広報活動

IRCIの活動内容について分かりやすく伝えるため、様々な媒体を利用して情報公開を行っています。

『IRCI概要』は毎年、日・英版を制作し、ユネスコ本部および地域事務所、カテゴリー2センター、各国ユネスコ国内委員会をはじめ、国内外の研究所、大学等に配布しています。IRCIウェブサイト(https://www.irci.jp/jp/)では事業内容や活動情報を適宜更新するとともに、事業報告書、会議録等の主要な出版物のPDF版を公開しています。さらに、公式Facebookや公式YouTubeチャンネルも立ち上げ、幅広い層への情報発信に努めています。



https://www.irci.jp/jp/



https://www.facebook.com/IRCI.Official/



https://www.youtube.com/@IRCI.Official

堺市との連携

IRCIは堺市と連携しながら、市民に向けた無形文化遺産に関する普及啓発活動や情報発信を行っています。IRCIが所在する堺市博物館内では、活動紹介のパネル展示を常設しているのに加え、無形文化遺産の理解を深めるために堺市が主催する一般市民向けイベントやセミナー、シンポジウムなどへの協力を行っています。



堺市博物館で開催したパネル展「コロナ禍を乗り越えたアジア太平洋地域の無形文化遺産」(2023年11月～2024年3月 堺市)



第45回無形文化遺産理解セミナー・ワークショップ「フィリピン民族舞踊にふれあおう」(2024年12月 堺市)

事業年表

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画（2012～2015年度）				中期計画（2016～2021年度）						中期計画（2022～2026年度）				
マッピング事業	重点領域Ⅰ 無形文化遺産保護に関する研究のマッピング			重点領域Ⅰ 無形文化遺産保護のための研究の促進						重点領域Ⅰ 無形文化遺産保護のための研究の促進				
				アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集						無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国（SIDS）を中心に				
				研究者フォーラム		研究者フォーラム		研究者フォーラム		アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム（旧名称：アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究拠点形成）				
	国際専門家会合													
	アジア太平洋諸国の無形文化遺産研究に関する文献調査													
	アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護の研究情報収集と活用の最適化													
				無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として						無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究—教育とまちづくり		無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究—持続可能なまちづくりと無形文化遺産		
												無形文化遺産と生態系に関する予備調査		
重点領域Ⅱ 危機に瀕する無形文化遺産の保護に関する調査研究				重点領域Ⅱ 無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究						重点領域Ⅱ 持続的かつレジリエントな社会構築のための無形文化遺産保護に関する研究				
コミュニティによる保護活動のツールとしての無形文化遺産のドキュメンテーション				アジア太平洋地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する予備調査		アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ				無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究		アジア太平洋地域の無形文化遺産と気候変動に関する調査研究		
東ティモールの無形文化遺産行政官向けスタディツアー												新型コロナ感染症の無形文化遺産への影響についての調査研究		
紛争後の国家における危機に瀕する伝統的手工芸の研究（スリランカ）				アジアの紛争後国家等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究										
ベトナム・ドンホー木版画を事例とする無形文化遺産のための保護措置の研究														
大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究														



紛争後の国家における危機に瀕する伝統的手工芸の研究（スリランカ） スリランカの大臣に最終報告書を共有、今後の協力関係について議論（2014年9月 スリランカ、コロンボ市）



ベトナム・ドンホー木版画を事例とする無形文化遺産のための保護措置の研究 ドンホー木版画技術継承者のコミュニティにて（2015年1月 ベトナム、バクニン省）



大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究 総括ワークショップにて議論する専門家（2016年12月 ベトナム、ハノイ市）



無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として サバネンのコミュニティの無形文化遺産の実践者を招いたワークショップ（2019年10月 フィリピン、マニラ市）

■IRCI主催の国際会議・ワークショップ等

研究情報収集

無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集

2025年2月	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集」中央アジア・小島嶼開発途上国(SIDS)最終ワークショップ
2024年3月	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集」小島嶼開発途上国(SIDS)地域ワークショップ
2024年2月	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集」中央アジア地域ワークショップ
2023年2月	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集」小島嶼開発途上国(SIDS)向けオンラインワーキングセッション
2022年8月	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集」中央アジア向けオンラインワークショップ
2022年1月	「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集」事業地域ワークショップ

無形文化遺産の保護に関する研究のマッピング

2017年7月	国際シンポジウム「無形文化遺産をグローバルに見る―地域社会と研究者、国家、ユネスコの相互作用―」 共催：成城大学グローバル研究センター、文化庁
2016年11月	国際専門家会合
2015年12月	国際専門家会合「アジア太平洋諸国における無形文化遺産保護のためのマッピング事業」 共催：アイギネ文化研究センター（キルギス）
2015年1月	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護に関する研究のマッピング」 共催：イスラム文化美術館（マレーシア）
2014年2月	国際専門家会合「アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護の実態や方法の調査研究」 共催：ユネスコバンコク事務所（タイ）

研究フォーラム

アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム

2025年2月	国際会議「無形文化遺産保護研究の新領域」 共催：国立民族学博物館、文化庁
2024年10月～2025年2月	「若手研究者育成のための出版プログラム」ワークショップ
2023年10～11月	スペシャル・セミナー「2003年条約採択から20年：再考と展望」

無形文化遺産保護に関するIRCI 研究者フォーラム

2021年10月	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の進展と課題―持続可能な未来に向けて―」 共催：文化庁
2019年12月	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」 共催：東京文化財研究所、文化庁
2017年11月	国際シンポジウム「無形文化遺産をめぐる交渉」 共催：国立民族学博物館、文化庁

持続可能な開発目標（SDGs）

無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究―持続可能なまちづくりと無形文化遺産

2024年10月	国際シンポジウム「持続可能なまちづくりと無形文化遺産―アジア太平洋地域における文化遺産の統合的保護の視点」
2024年3月	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究：持続可能なまちづくりと無形文化遺産」2023年度ワークショップ 共催：カンボジア・アプサラ国立機構
2023年2月	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究―持続可能なまちづくりと無形文化遺産」事業第1回国際シンポジウム

無形文化遺産のSDGsへの貢献―教育とまちづくり

2021年12月	国際シンポジウム「無形文化遺産の貢献―より良い学びと持続的可能なまちづくりに向けて」
2021年1月	国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究―教育とまちづくり」

無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究―教育を題材として

2019年11月	国際ワークショップ「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究―教育を題材として」
2019年1月	国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究―教育を題材として」



国際会議「無形文化遺産保護研究の新領域」
(2025年2月 大阪)



国際シンポジウム「持続可能なまちづくりと無形文化遺産―アジア太平洋地域における文化遺産の統合的保護の視点」(2024年10月 京都)

自然災害と災害リスクマネジメント

アジア太平洋地域の無形文化遺産と気候変動に関する調査研究

2025年4月	オンライン・キックオフ・ミーティング
---------	--------------------

新型コロナウイルスの無形文化遺産への影響に関する調査研究

2023年7月	国際会議「新型コロナウイルス感染症と無形文化遺産のレジリエンス」
---------	----------------------------------

無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究

2023年9月	「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究事業」最終ワークショップ 共催：文化財防災センター
2022年8～9月	地域ワークショップ2022

無形文化遺産保護と自然災害に関する調査研究

2018年12月	アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ 共催：東京文化財研究所
----------	--

アジア太平洋地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する予備調査

2017年1月	「アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業ワーキンググループ国際会合
---------	---



「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究事業」最終ワークショップ（2023年9月 奈良）

ポスト・コンフリクト

アジアの紛争後国家等を対象とした消滅の危機に瀕する無形文化遺産の緊急保護支援の研究

2018年12月	アジアの紛争後国家等を対象とした消滅の危機に瀕する無形文化遺産の緊急保護支援事業における調査報告会
----------	---

紛争後の国家における危機に瀕する伝統的工芸の研究（スリランカ）

2015年12月	紛争後の国家における危機に瀕する伝統的手工芸ワークショップ
----------	-------------------------------

東ティモールの無形文化遺産行政官向けスタディーツアー

2013年10月	日本における東ティモールの無形文化遺産行政官向けスタディーツアー 共催：ユネスコ・ジャカルタ事務所（インドネシア）
----------	--

危機に瀕する無形文化遺産の保護

大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究

2016年12月	第3回IRCI 国際ワークショップ「大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究」
2015年12月	第2回IRCI 国際ワークショップ「大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究」
2014年12月	第1回IRCI 国際ワークショップ「東南アジア諸国における無形文化遺産に関する法制度研究」 共催：九州大学大学院法学研究院

ベトナム・ドンホー木版画を事例とする無形文化遺産のための保護措置の研究

2015年1月	ベトナム・ドンホー木版画を事例とした無形文化遺産の活性化におけるコミュニティセンターの役割についての研究ワークショップ 共催：ベトナム文化芸術研究院（ベトナム）
---------	---

コミュニティによる保護活動のツールとしての無形文化遺産のドキュメンテーション

2015年3月	コミュニティ主導の保護活動のツールとしての無形文化遺産のドキュメンテーションについての集中ワーキングセッション
2014年2月	無形文化遺産保護のためのコミュニティの若手映像記録者のためのワークショップ
2013年2月	無形文化遺産を継承するコミュニティのための記録製作ワークショップ
2012年3月	コミュニティと無形文化遺産条約に関する研究者集会

2003年条約に関する研究

2013年1月	無形文化遺産に関する研究集会―ユネスコ無形文化遺産条約の2つのリスト
2012年6月	第1回無形文化遺産研究専門家会合―2003年条約の履行に向けて 共催：フランス世界文化館（フランス）

危機に瀕した無形文化遺産の現状

2012年8月	アジア太平洋地域文化財保護フィールドスクール修了生セミナー 共催：シリントーン大学人類学センター（タイ）
---------	---

堺市との連携事業

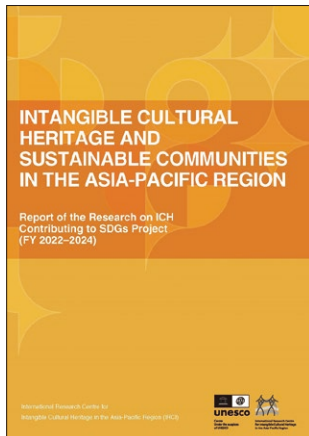
2016年11月	無形文化遺産国際シンポジウム「技と心を受け継ぐ」 共催：文化庁、堺市
2013年8月	無形文化遺産保護条約採択10周年記念シンポジウム 共催：文化庁、堺市
2013年2月	無形文化遺産シンポジウム「アジア太平洋地域における無形文化遺産の現状と課題」 共催：堺市
2011年10月	開設記念シンポジウム「危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える」 共催：文化庁、堺市

刊行物

＊印のあるものはウェブサイトからダウンロード可 https://www.irci.jp/jp/report_publication/

アジア太平洋地域における無形文化遺産と持続可能なコミュニティ：無形文化遺産のSDGsへの貢献に関する調査研究事業報告書（2022–2024年度）

（2025年3月刊行、英語、201ページ）ISBN-978-4-9909775-9-7＊



2022～2024年度に実施した「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究：持続可能なまちづくりと無形文化遺産」事業の成果報告書です。事業概要および事業の一環としてカンボジア、マレーシア、マレーシアの各関係機関の協力により実施した事例研究報告、また事業において2023年と2024年に開催した2回のシンポジウムで共有されたアジア太平洋地域の様々な国々における事例を収録しています。

「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国（SIDS）を中心に」事業報告書第1集（2024年度）

（2025年3月刊行、英語、129ページ）ISBN-978-4-9914165-0-7＊



2022年度から2024年度にかけて中央アジアで実施した情報収集活動の概要、およびウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、モンゴル各国の連携機関による最終レポート、また、前事業に参加し2022年度まで情報収集を実施していたフィリピンの最終レポートを収録しています。加えて、中央アジアで収集した全ての研究情報を基にした地域分析の報告も掲載しています。

スリランカの内戦後地域における消滅の危機に瀕した伝統工芸の保護プロジェクト【第2版】

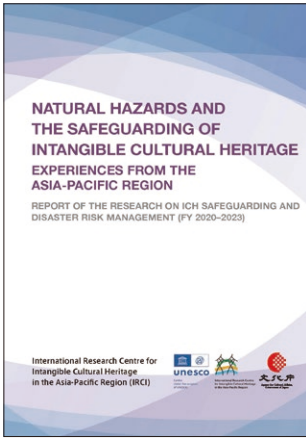
（2025年3月刊行、英語、133 ページ）ISBN-978-4-9909775-6-6＊



「紛争後の国家における危機に瀕する伝統的手工芸の研究（スリランカ）」事業（2013～2015年度）の成果として作成された本報告書の第2版は、スリランカ北部および東部州における伝統的な織物や女性の手工芸の復興について詳述しています。初版は2014年に出版され、関係者に配布しました。しかし、紛争影響地域における危機に瀕した伝統工芸の保護に関する情報と貴重な知見をより多くの人々と共有してほしいという関係者からの要望を受け、第2版をオンラインで公開しました。

「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業最終報告書（2020–2023年度）

（2024年3月刊行、英語、120ページ）ISBN-978-4-9909775-7-3＊



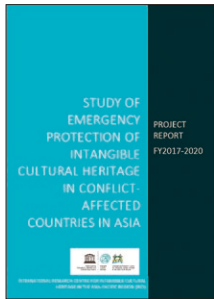
2020～2023年度に実施した「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業の成果報告書です。事業活動のまとめとともに、インドネシア、バングラデシュ、フィリピン、ベトナム、モンゴルの研究者や組織と協力して実施した事例研究の成果を収録しています。また、日本における無形文化遺産保護の進展についても紹介しています。



「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集」2019～2021年度事業報告書（2022年3月刊行、英語、87ページ）ISBN-978-4-9909775-3-5＊



「新型コロナウイルスの無形文化遺産への影響に関する調査研究」事業 質問票調査速報（2022年8月刊行、英語、26ページ）＊



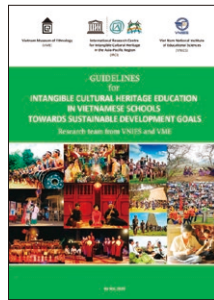
「アジアの紛争後国家等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究」事業におけるプロジェクトレポート（2021年3月オンライン出版、英語、188ページ）



「無形文化遺産のSDGsへの貢献—教育とまちづくり」事業におけるプロジェクトレポート（2021年2月オンライン出版、英語、300ページ）＊



「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」事業におけるフィリピンのノンフォーマル教育向けガイドライン（2020年10月刊行、スペイン語、130ページ）ISBN 978-621-432-020-2＊



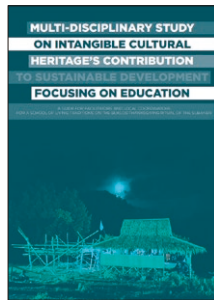
「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」事業におけるベトナムのフォーマル教育向けガイドライン（2020年7月刊行、英語、154ページ）＊



国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」プロシーディングス（2020年3月刊行、英語、194ページ）＊



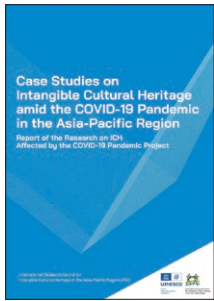
「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」事業におけるプロジェクトレポート（2020年2月オンライン出版、英語、260ページ）＊



「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」事業におけるフィリピンのノンフォーマル教育向けガイドライン（第2版）（2020年2月刊行、英語、130ページ）＊



「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」事業におけるベトナムのフォーマル教育向けガイドライン（第2版）（2020年2月刊行、ベトナム語、119ページ）＊



新型コロナウイルス感染症の無形文化遺産への影響に関する事例研究（「新型コロナウイルス感染症の無形文化遺産への影響に関する調査研究」事業 最終報告書（2021～2023年度）（2024年4月刊行、英語、150ページ）ISBN-978-4-9909775-8-0＊



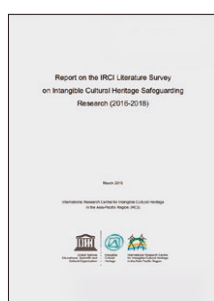
「コロナ禍における無形文化遺産のレジリエンス」（2023年3月刊行、英語、9ページ）ISBN-978-4-9909775-5-9＊



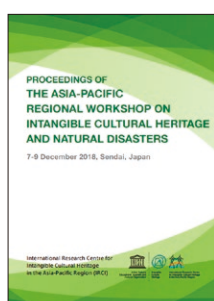
アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関するIRCI研究者フォーラム「無形文化遺産研究の進展と課題—持続可能な未来に向けて—」プロシーディングス（2022年3月刊行、英語、129ページ）ISBN-978-4-9909775-2-8＊



「無形文化遺産のSDGsへの貢献—教育とまちづくり」2020～2021年度事業報告書（2022年3月刊行、英語、368ページ）ISBN-978-4-9909775-4-2＊



「無形文化遺産保護研究に関する文献サーヴェイ報告書（2016–2018）」（2019年3月オンライン出版、英語、17ページ）＊



「アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ プロシーディングス」（2019年3月刊行、英語、157ページ）＊

- 「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する予備調査」（2018年3月刊行、英語、238ページ）＊
- 「国際シンポジウム 無形文化遺産をめぐる交渉」（2018年3月刊行、英語、149ページ）ISBN 978-4-9909775-0-4＊
- 「国際シンポジウム 無形文化遺産をグローバルに見る—地域社会と研究者、国家、ユネスコの相互作用—」（2017年11月刊行、英語、177ページ）＊
- 「大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究」（2017年3月刊行、英語、62ページ）
- 「無形文化遺産国際シンポジウム—技と心を受け継ぐ—」（2017年3月刊行、日本語、61ページ）＊
- 「ベトナム・ドンホー版画を事例とする無形文化遺産のための保護措置の研究」（2017年3月刊行、英語、156ページ）ISBN 978-4-9906647-9-4
- 「コミュニティ主導の保護活動のツールとしての無形文化遺産のドキュメンテーション」（2016年3月刊行、英語、140ページ）ISBN 978-4-9906647-4-9
- 「スリランカの内戦後地域における消滅の危機に瀕した伝統工芸の保護プロジェクト」（2016年2月刊行、日本語、91ページ）ISBN978-4-9906647-7-0
- 「日本における東ティモールの無形文化遺産行政官向け研修ツアー」（2015年3月刊行、英語、118ページ）ISBN 978-4-9906647-5-6＊
- 「スリランカの内戦後地域における消滅の危機に瀕した伝統工芸の保護プロジェクト」（2014年9月刊行、英語、138ページ）ISBN 978-4-9906647-4-9
- 「無形文化遺産に関する研究集会—ユネスコ無形文化遺産条約の2つのリスト」（2013年3月刊行、英語、169ページ）ISBN 978-4-9906647-1-8
- 「アジア太平洋地域文化財保護フィールドスクール修士生セミナー」（2013年2月刊行、英語、336ページ）＊
- 「第1回無形文化遺産研究専門家会合—2003年条約の履行に向けて」（2012年9月刊行、英語、111ページ）ISBN 978-4-9906647-0-1＊
- 「コミュニティと無形文化遺産条約に関する研究者集会」（2012年7月刊行、英語、93ページ）＊
- 「2011年無形文化遺産保護に関する研修」（2011年2月刊行、英語、55ページ）＊

独立行政法人 国立文化財機構

アジア太平洋無形文化遺産研究センター (IRCI)

〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 堺市博物館内

TEL (072) 275-8050 FAX (072) 275-8151

<https://www.irci.jp/jp>

2025年9月発行

©IRCI 2025

画像等の無断転載を禁じます。

